



2014-15 年度 R I のテーマ「ロータリーに輝きを」
R I 会長 ゲイリー・C. K. ホアン (Light Up Rotary)

八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 工藤 武重 ●会長 榎 清蔵 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/>

Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org/2014/>

第 1907 回例会記録《ゲストスピーチ例会》

2014 年 11 月 20 日 (木) 点鐘 12:30

レポート No. 1340

第 1907 回例会要旨

- ・会長要件
- ・幹事報告
- ・各委員会報告
 《出席・親睦》
- ・ゲストスピーチ



熊谷 S A A

《ゲスト》

株ゼフィール取締役総務部長

株エヌエルフォーティー取締役総務部長

柳 稔 様

《ビジター》

南グループガバナー補佐

村上 隆三 様 八戸 RC

《会長要件》榎会長



今日はゲストスピーチとして柳 稔さんをお迎えして東日本大震災で被災した当時の状況や地域で起きた事柄、地域での人の助けや絆、避難所での生活などをお話して頂きます。柳さんの会社は縫製工場を営まれていて、野田村で被害に遭われましたが、当時中国からの研修生もお出でになっていました。その辺のいきさつも含めお話しいただいて、私たちの奉仕団体としての活動の参考になればいいなと思いお招きしました。今年のゲストスピーチは人との絆をテーマとしてスピーチをお願いしています。震災に関してもう一度思い出していただきたくて、震災に関して 2 回目のゲストスピーチです。よろしくお願いします。

《奥様誕生日》



橋本会員

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか

《出席報告》田守副委員長

正会員数 43 名。本日の出席は免除会員 3 名を含む 23 名。出席率 64% です。前々会の例会は、任意休会でした。



《幹事報告》伊藤幹事



・例会変更のお知らせです。八戸東 RC、12月5日(金)時間場所変更、12月19日(金)任意休会、12月26日(金)時間変更、八戸北 RC、12月16日(火)時間変更、12月23日(火)祝日につき休会(メーキャップ

不可)、12月30日(火)任意休会

・サンパウロ国際大会のパンフレットが届いています。

《ニコニコボックス》平光委員長

榎会長：柳様本日はゲストスピーチよろしくお祈いします。

伊藤幹事：柳様、今日はよろしくお祈いします。

平光会員：12/18 クリスマス家族会、来週から出欠とりますので皆様ご参加よろしくお祈いします。

奥様誕生日：橋本会員



《村上隆三ガバナー補佐》



今日は IM のお祈いに参りました。12月6日(土)14時登録開始ですが非常に参加者が少なく困っています。何で12月にするのかとおしかりを受けていますが、やむに已まれぬ事情で12月になりました。今日は IM のプログラムをご紹介します。(IM のテーマ、講師の中村仁一先生のプロフィールなどを紹介) IM のテーマとしてはどうかと思いましたが、皆様にこの先生の講演を聞いていただきたく企画しました。参加者が非常に少なく困っています。助けて下さい。

《榊会長》

改めて講師の先生をご紹介します。プロフィールに有りますように趣味、競技ダンスと有りますが時々八戸の教室にお手伝いや練習にいらしているそうです。プロフィールの下の方に東日本大震災、2週間の避難所生活を経験と有ります。当時連絡が付かず、生死も分からず、一生懸命探しましたが見つかりませんでした。インターネットで避難所にいることが分かり、柳さんのお名前や、中国の方々の名前があり一安心しました。そんなこともありましたが、こうして今日はゲストにお迎えする事が出来た。柳さんよろしくお願ひします。

《ゲストスピーチ》柳 稔様



改めましてこんにちは、プロフィールをお手元に届けさせていたいただきますが若干捕捉させていただきます。山口県防府市で生まれました、本州の一番南端でしょうか、そうした私が東京を経由したものの、本州の一番北の端、青森県八戸市で皆様方の前でお話する機会を得ましたことは、偶然、或は運命的な事を感じるものです。本日八戸南ロータリークラブの会合にお招きいただきました榊会長はじめ皆様方に、改めてお礼申し上げます。

この後、東京の会社から岩手の会社に移ってきた経緯と、その時の苦労したことなどを交えながら、東日本大震災で被災したお話をして頂いた。

・中国から来ていた研修生に日本の復興ぶりを見てもらおうと、一年後、二年後と同じ場所で写真を撮ったが一年後の写真では大きく変化があったが二年後の写真ではあまり変化がなく、三年後のいまでも代わり映えしていない事。

・震災の当日中国からの研修生たちと連絡が取れず心配したが、翌日全員の安否が分かりほっとしたこと。

・研修生たちと避難所暮らしをしたが、久慈工業高校の体育館ではなく研修施設で、研修生たちの他に中国からの帰国子女の方を含め、一部屋に11名での生活で比較的恵まれていた事。

・避難所では自治組織を作ってルール作りをしたが、ルールを守ると言う日本人の資質を強く感じた。ルールを守ると言う事が我々の体の中には染み込んでいるのではないか。

・NTTが避難所に衛星電話を取り付けてくれたので、それにより日本では原発が爆発した、日本は終わりだ、などの中国での誤った情報が分かったが、日本は危ないからすぐ帰れとの情報もあり研修生たちは帰国を望んだので、大使館に連絡を取ったところ、帰国命令は出ていないが帰国の援助をはしているという事で、帰国させたこと。帰国後にメールで無事着いたとの連絡があった。

・避難所生活をする中で、日本人の資質を再認識する良い機会であり、ルールを守る、人の事を思いやる、自分より先に相手の事を思いやる、おもてなしの文化がある事を再認識した。

・同じように被害を受けた八戸の人からもせんべい汁の炊き出しをしてもらったり、弘前からも学生を中心としたボランティアの人たちに来ていただき、ヘドロの掻き出しを手伝ってもらったりした。

・八戸も弘前も同じ文化圏かと思っていたが八戸は南部、弘前は津軽と全く違う。野田はお祭りなどを見ても八戸と同じ南部圏だと思われる。津軽と南部は仲が悪いとテレビなどでも言っていますがどちらも同じ青森県民として野田村の人たちは感謝している。

・研修生を受入れる側として身近なところから日本の文化を理解してもらい、日本のよい印象を持って帰ってもらう事で、日中関係も良くなっていくのではないか、今でもメールのやり取りが続いているので良い印象を持って帰ってもらえたと思っている。等々この他にも色々なお話をして頂きました。柳様どうもありがとうございました。